

2023 年度夏の三者総会 議案書

令和 5 年 8 月 20 日 (日) 開催

概要

本議案書は、令和 5 年 8 月 20 日 (日) 開催の、2023 年度夏の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2023 年度修正予算案	['23/8/12 現在]	1
1.1	収支の概要		2
1.2	収入予定		2
1.3	支出予定		3
2	2025 年度三者準備校に関する議案書		5
2.1	これまでの議論		6
2.2	東京大学の現状		7
2.3	提案		7
2.4	まとめ		8
3	2024 年度三者役職校一覧		8

1 2023 年度修正予算案

['23/8/12 現在]

2023 年 8 月 15 日

文責：羽生田典麻 (名古屋大学)

2023 年度秋の三者総会にてご承認いただいた「2023 年度修正予算案」に以下 3 点の修正を加え、改めて「2023 年度修正予算案」を提出いたします。何卒ご承認をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 各役職校予算の修正 (三者センター校・三者準備校・三者企画校・素粒子論パート準備校・素粒子論パート議事録作成校)
- (2) 参加登録者・旅費補助申請者の情報を反映
- (3) 日本物理学会からの原稿料の反映

1.1 収支の概要

(+) が今年度の収入を、(-) が今年度の支出を表す。

項目	本予算案	前年度決算
参加登録費	+¥1,252,000	+¥0
素粒子論グループ援助金	+¥450,000	+¥54,000
基研援助金	+¥441,009	+¥99,650
日本物理学会原稿料	+¥3,000	+¥3,000
前年度繰越し金	+¥837,855	+¥810,913
旅費補助 (キャリアフォーラム登壇者)	-¥42,000	-¥0
旅費補助 (学生参加者)	-¥872,018	-¥0
ポスター印刷費	-¥33,930	-¥99,650
役職校支出	-¥693,515	-¥30,058
次年度繰越し金	¥1,342,401*1	¥837,855

*1 適正額を超えた繰越し金については、2023 年度秋の学会と 2024 年度春の学会で素粒子論グループに繰り越しの承認をお願いする予定 (2023/8/9 時点で素粒子論グループ内の素粒子論委員会と核理論委員会の委員長には相談済)

1.2 収入予定

- (1) 前年度繰越し金 (2022 年度決算終了時の繰越し金額を記載) : ¥837,855
- (2) 参加費 (現地参加者が 276 名 + オンライン参加 74 名) :
 $¥4,000 \times 276 + ¥2,000 \times 74 = ¥1,252,000$
- (3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表) : ¥894,009

団体名	内容	申請額	支援額
素粒子論グループ	旅費補助 *1	¥450,000	¥450,000
基研	講師等旅費, ポスター印刷費 *2	¥500,000	¥441,009
日本物理学会	原稿料	¥0	¥3,000
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0	¥0
KEK	協賛	¥0	¥0
RCNP*3	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費	出版費
合計		¥950,000	¥894,009

*1 秋季学会で申請。

*2 1 月に申請。

*3 春季学会にて申請。

収入合計 : (1) + (2) + (3) = ¥2,983,864

1.3 支出予定

- (1) 旅費補助：¥914,018
- (2) ポスター印刷費：¥33,930
- (3) 各役職校支出：¥693,515 (各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。)

役職名	旧予算案	修正予算案	前年度決算額 *1
三者センター校	¥18,000	¥3,300	¥3,146
三者事務局	¥0	¥0	¥0
三者準備校	¥611,710	¥632,485	¥24,962
三者企画校	¥0	¥10,380	¥0
素粒子論パート準備校	¥12,000	¥9,234	¥1,950
素粒子論パート講義録校	¥0	¥33,116	¥0
原子核パートセンター校	¥0	¥0	¥0
原子核パート準備校	¥5,000	¥5,000	¥0
計	¥646,710	¥693,515	¥30,058

*1 前年度決算は 2022 年度三者センター校の決算報告に基づいている。

(注.) 他に『学生旅費補助』、『次年度繰越金』、『ポスター印刷費 (上限 10 万円)』、『講師旅費』などがある。

支出合計：(1) + (2) + (3) = ¥1,641,463

1.3.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (名古屋大学)

申請項目	旧予算案	修正予算案	前年度決算
振込手数料	¥16,000	¥3,300	¥880
賞状代	¥2,000	¥0	¥1,266
賞状輸送代	¥0	¥0	¥1,000
申請額合計	¥18,000	¥3,300	¥3,146

振込手数料：3,300 円 (学生への旅費補助の振り込み)

旅費補助の振込などにかかる手数料 (計 20 件として計算)

- 三者準備校 (九州大学)

申請項目	旧予算案	修正予算案	前年度決算
施設使用料	¥268,710	¥321,230	¥0
コピー代	¥20,000	¥0	¥0
備品送料	¥5,000	¥5,000	¥1,720
会場下見代	¥200,000	¥206,324	¥0
ポスター輸送費	¥25,000	¥34,398	¥22,670
ポスター制作費	¥30,000	¥35,000	¥0
機材費	¥33,000	¥0	¥0
zoom	¥25,000	¥9,708	¥0
消耗品代	¥5,000	¥20,825	¥572
申請額合計	¥611,710	¥632,485	¥24,962

施設使用料：国立オリンピック記念青少年総合センターを8/17～8/21の間、使用。

備品送料：次年度準備校への備品運搬費。（2017年度予算案をもとに算出。）

会場下見代：会場下見にかかる旅費（4人（一人当たり、往復飛行機代 ¥40,000+ ホテル ¥5000））、および、実際に現地でWiFiルーターとカメラをレンタル代。

ポスター輸送費：各大学への輸送費

ポスター制作費：個人クリエイターへの製作依頼費。相場：<https://www.shisodo.com/?onelogs=【まとめ】媒体別グラフィックデザインの費用相>※前年度など、秋元さんへ依頼した場合には依頼費6万円。

zoom：zoomのアカウント作成費。

消耗品代：ポスター郵送に必要な文具（6,025円）、名札ホルダー（10,800円）、現地開催のための消耗品（4000円）。

- 三者企画校（大阪公立大学）[旧予算案は申請なし]

申請項目	修正予算案	前年度決算
優秀発表賞 賞状（A4）印刷（計12枚）	¥5,940	¥0
賞状郵送（レターパックライト）（12枚分）	¥4,440	¥0
申請額合計	¥10,380	¥0

優秀発表賞 賞状（A4）印刷（計12枚）：<https://d-shojo.com/sj/page/price/index.html>

賞状郵送（レターパックライト）（12枚分）：<https://www.post.japanpost.jp/service/letterpack/>

1.3.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (茨城大学)

申請項目	旧予算案	修正予算案	前年度決算
32GB SD カード (3 枚)	¥4,000	¥3,234	¥0
機材送料	¥6,000	¥6,000	¥1,950
消耗品代	¥2,000	¥0	¥0
申請額合計	¥12,000	¥9,234	¥1,950

32GB SD カード 4 枚：録音・録画保存用。(Amazon をもとに算出)

機材送料：夏の学校会場、次年度準備校への機材運送費。(2019 年予算をもとに算出)

消耗品：消耗品 (ホワイトボードマーカーなど) の購入費。(2019 年予算をもとに算出)

- 素粒子パート講義録作成校 (千葉大学)[旧予算案は申請なし]

申請項目	修正予算案	前年度決算
ビデオカメラ 2 台 (レンタル)	¥20,760	¥0
三脚 2 台 (レンタル)	¥6,360	¥0
ビデオキャプチャー 2 台	¥2,299	¥0
マイクロ HDMI ケーブル 2 本	¥699	¥0
申請額合計	¥33,116	¥0

ビデオカメラ (レンタル)：録画用、テスト期間含め 7 日間

<https://rental-camera.jp/product/sony-4k-fdr-ax30/#description>

三脚 (レンタル)：同上 <https://rental-camera.jp/product/tripod/#description>

ビデオキャプチャー 2 台：カメラを PC に接続するため [amazon 商品ページ](#)

マイクロ HDMI ケーブル 2 本：同上 [amazon 商品ページ](#)

- 原子核パート準備校 (筑波大学)[修正なし]

申請項目	予算案	前年度決算
印刷・コピー代	¥2,000	¥0
文具代	¥3,000	¥0
申請額合計	¥5,000	¥0

印刷・コピー代：研究会プログラム、アブストの印刷代。(2014、2015 年度の予算案をもとに算出)

文具代：2014、2015 年度の予算案をもとに算出。

2 2025 年度三者準備校に関する議案書

2025 年 8 月 15 日

文責：小松原涼介，古川裕貴 (東京大学)

2.1 これまでの議論

慢性的に人手不足が続いてきたことが議事録等に記録されており、これからも続いていくことが、少子化等の背景により想定されている。それゆえ現在までに、ローテーション制度や有志制度が提案されてきたのが数年来の状況である。

2.1.1 東京大学について

2020年7月2日に行われた運営会議の議事録^{*1}において、東京大学の三者センター校担当について各研究室の独立性、各キャンパスの独立性を東京大学代表者が主張した旨、記載がある [1]。また、東北大学からの反論として「名簿の人数からは駒場のみでも対応可能ではないか？ 過去、実務は素粒子3人、加えて原子核の協力者を1名募る形で十分対応できた。」との意見が出た。それに対して東京大学側は「その人数であれば、他の大学でも対応可能ではないか。」と反論した。なお、「V. 持ち越し事項」において「三者センター校は、過去、実務を素粒子3人、加えて原子核の協力者を1名募る形で十分対応できた。三者準備校は人数が多ければ多い方が良い。」という東北大学の参考意見が併記されている。「IV. 決定事項」において「東京大学については、議案事項にある理由から、ローテーション校に含めるか再検討する。」という記述があった。この「議案事項にある理由」とは前述の研究室・キャンパスの独立性である。また、東京大学の所属人数については、2019年度が15人、2020年度が17人とされていた。

次に、2021年度総会議事録 3.1 節「役職の決め方について」において、ローテーション制の中に東京大学が含まれていると記載がある [2]。

加えて、2022年度議案書 2.1.1 節「ローテーション制度」表1において2025年度に東京大学が準備校を担当する予定である旨、記載がある [3]。

三者代表者とのメールのやり取りによると2025年度に東京大学が準備校を担当するのは2019年度の三者総会において決定されたとされている。

2.1.2 複数校での共同担当について

2015年度夏の三者総会 議事録 3 章「三者役職校選定」において、2017年度三者準備校として東京大学(駒場)・東京工業大学が選定されたという記載があり [4]、実際に開催された。それ以降、準備校に関しては2020年度(コロナ禍により開催はされず)に至るまで共同担当が続いた。

2.1.3 有志学生連合制度について

■新潟大学による有志募集について 2023年度議事録に、「新潟大学より2022年度夏の三者総会にて可決された有志学生連合制度に従って、有志学生スタッフの募集結果の報告が行われ、承認されました。」と記録がある [5]。

その理由は2022年度議案書 2.1.2 節 新潟大学の現状 に記されている [3]。

■参考: ICEPP の有志参加について 2006年度にも有志参加の事例がある。その際、International Center for Elementary Particle Physics (ICEPP) が高エネルギーパート準備校を務めた。高エネルギーパートは「東大 ICEPP の学生有志による運営で2006年度の開催へと至った」 [6, 7]

^{*1} yonupa のページでは公開されていない。この議事録に関する記述は東京大学駒場素粒子論研究室の卒業生より提供されたものに基づく。

2.2 東京大学の現状

2.2.1 2025 年度の「実働人数」の想定

2025 年度に想定される東京大学駒場キャンパス「実働人数」は、少なくとも 3 人であると見積もられる。現在 M1 は在籍しておらず、これは現在の総合文化研究科の M2 のうち D2 時点で駒場キャンパスで博士課程進学の見込みがある人数である。ここに、今年度・来年度大学院試験による入学者、および 2025 年度の D3 は含めていない。また今年度中 野海研究室の学生が正式に所属しているのは、東京大学 (大学院) ではなく神戸大学であることに注意を要する (Table 1)。

M1	M2	D1
0	3 (+ 神戸大 1)	2

Table 1: 2023 年度現在の東京大学駒場キャンパスにおける博士課程進学見込みおよび在籍者の数。なお M1 は所属 0 人。神戸大からの博士課程進学予定は 1。

2.2.2 他キャンパスについて

駒場・本郷・柏キャンパスは地理的にそれぞれ公共交通機関を使っても 1 時間ほど離れており、それぞれがほとんど独立の研究共同体として動作している。また駒場キャンパスに至っては、総合文化研究科として構成員から学科・カリキュラムに至るまで他とは異なっている。

他キャンパスとの連携を探ることは可能であるが、困難があり、例えば上に挙げたような地理的遠隔がある。

2.3 提案

東京大学駒場キャンパス 素粒子論研究室における議論の中で、以下のような案が提示された。

- 本郷または柏から協力的な返答を待ち、柏と本郷の学生との協働を最優先する。→ 2.3.1 節
- 複数校での共同担当 (2.1.2 節) や有志学生連合制度 (2.1.3 節) 等の前例の存在する案に沿いながら、準備校担当校を再編する。→ 2.3.2 節

2.3.1 本郷キャンパスと柏キャンパスからの協力について

本郷キャンパスと柏キャンパスの構成員 (の一部) が三者本部からのメールを無視しているのは事実だが、実際に準備校として動くまでまだ一年あるので、働きかける余地はある。

実際、駒場キャンパスからの連絡と働きかけにより、現在までに本郷の代表者 1 名 および ipmu の連絡担当者が 1 名決定している。^{*2*}^{*3}また、原子核実験の 1 研究室から 2 名 協力的な回答を頂いた。ただし、本郷・柏キャンパスを含めた共同により十分運営が可能かについては、新入生の人数も予想できない現在においては、定かではない。

^{*2} 8/15 に決まったことなので、まだ状況確認、意見の擦り合わせは十分でない。

^{*3} 駒場キャンパスが夏の学校運営する上で、本郷・柏からの協力が十分でなかった場合、東京大学全体として準備校を担当するかどうか、最終手段として再検討する意見も出された。

2.3.2 共同による準備校担当・有志学生連合との連携について

駒場単独で準備校を運営するのは現実的でないので、必要ならば共同担当校あるいは有志学生連合の人員を募集する。実際、最小想定「実働人数」3人に対し、前例では準備校担当に25人必要との意見がある[8]。当日必要人数に関しては今後も気を配る必要がある*4。

2.4 まとめ

東京大学大学院 駒場キャンパス 総合文化研究科として、我々は三者若手および東京大学の現状に鑑み、本郷・柏キャンパスからの協力を模索しつつ、2025年度夏の学校準備校の共同担当または有志学生連合との連携を提案する。

References

- [1] 三者若手夏の学校 ローテーション制に関して 会議議事録. 2020/07/02 (木).
- [2] 2021年度夏の三者総会 議事録. https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2021summer_giji.pdf.
- [3] 2022年度夏の三者総会 議案書. http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2022summer_gian.pdf.
- [4] 2015年度夏の三者総会 議事録. http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2015summer_giji.pdf.
- [5] 2023年度秋の三者総会 議事録. http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2023autumn_giji.pdf.
- [6] 文責:矢島 和希 (大阪大学理学研究科). 第1章 高エネルギーパートの将来について. http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2015summer_tsuikagian.pdf. 2015年度夏の三者総会, 追加議案.
- [7] 2006年度夏の学校三者総会議案書. http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2006summer_gian.pdf.
- [8] 役職校タイムテーブル. 最終更新:2022年8月27日.

3 2024年度三者役職校一覧

2024年度三者若手夏の学校における三者役職校が以下の通りとなりました。

- 三者センター校：有志学生連合
- 三者準備校：東北大学
- 事務局校：奈良女子大学
- 企画校：金沢大学

*4 講義の準備・昼食や夕食の準備と誘導・飲み会の準備, など, 予定が切り替わるタイミングでは, ある程度まとまった人数が必要だと想定される(効率しだいで人数には揺れが生じる). 加えて, 飲み会の買い出し, 招待講演スピーカーの対応, 宿の従業員とのやりとりなど細かい仕事もあったと思われる.